

国際交流事後活動ニュース

MACROCOSM

◎特集 第30回「東南アジア青年の船」事業
日本国内受入プログラム

マクロコズム 2004.¹



vol. 56

(財)青少年国際交流推進センター

～30年の歴史に支えられて～

「東南アジア青年の船」30周年記念フォーラム（10月16日）

〈開会式〉



▲ 挨拶をする小野清子内閣府特命担当大臣（青少年育成及び少子化対策）



〈基調講演〉

▲（テーマ「東南アジアと日本の将来について」）白石 隆京都大学
東南アジア研究センター教授



▲ 日本の事後活動組織であるIYEOとASEAN各国の事後活動組織による活動発表、フィリピンの代表者による発表



▲ 第30回参加青年によるディスカッションの成果発表における最後のパフォーマンス

「東南アジア青年の船」事業は、昭和49年1月に行われた、インドネシア、マレーシア、フィリピン、シンガポール及びタイの各国と日本との間の首脳会談による共同声明に基づき、アセアン諸国と我が国による青少年国際交流の共同事業として発足したものです。昭和60年度からはブルネイ・ダルサラームを、平成8年度からはベトナムを、平成10年度からはラオス及びミャンマーをそれぞれ加え、さらに、平成12年度からは、平成11年4月にアセアンに加盟したカンボジアを新たに加え、これらアセアン諸国の積極的な参加と協力の下に、日本政府が実施しています。

30回を迎えた今回は、シンガポールでアセアン各国参加青年が参集し乗船した後に、当初のアセアン5か国に寄港して、最後に日本の寄港地活動という日程でした。

アジア青年のつどい（10月19日～22日）

基礎教育をテーマに、一般公募によって参加した青年を加えて、（独）国立オリンピック記念青少年総合センターにて実施しました。まず、最初に新宿区立の11校の小中学校を訪問して日本の教育現場を体験し、翌日はグループに分かれて「基礎教育」についての意見交換を行って、後にまとめの発表をしました。

また、夜には各国のパフォーマンスを紹介しあいながら食事をする「交流の夕べ」で楽しい時間をもつことができました。

〈小学校訪問〉



▲ 四谷第六小学校



早稲田小学校 ▼



落合第一小学校 ▲



津久戸小学校 ▼



西戸山中学校 ▼



花園小学校 ▼

第30回「東南アジア青年の船」～アジア青年のつどい～



落合第三小学校



戸塚第三小学校



余丁町小学校



▲ 西新宿小学校



▲ 市谷小学校



〈意見交換会〉

〈交流の夕べ〉



第30回「東南アジア青年の船」 ～アジア青年のつどい～

第30回「東南アジア青年の船」国内受入プログラム
「アジア青年のつどい」実行委員長 大河原友子
(第14回「東南アジア青年の船」アシスタントユースリーダー)

「東南アジア青年の船」の事業は、今年記念すべき30周年を迎えました。この歴史ある事業の大切な節目の年に、国内受入委員長を仰せつかり日本国内プログラムを作り上げていく一人として参加できたことは大変光栄なことでした。

国内プログラムの中でも特に「アジア青年のつどい」(アジアユースミーティング/AYM)においては実行委員の一人一人がそれぞれのもった立場で本当に良く頑張ってくれたと思います。

実行委員は、既参加青年のみならず、初めての人、ベテランの人、学生、社会人とさまざまな人が自分の忙しい生活をもちながらの活動であるにもかかわらず、時間とアイデアを効率よく協力的に使い、各自のできる範囲で精一杯やる。というようにグループ全体のポジティブな姿勢がおのずとでき上がっていったことが素晴らしい点であったと思います。

そのような“良い雰囲気”というのは一度でき

上がるとお互いをいい方向に刺激しあうので1+1が3にも5にもなっていき、優秀であるのみならず、かゆいところにまで手が届く……というように本当に気が利く人たちの集まりとなりました。それぞれの立場や身分によって、関われる時間や内容も異なっては来るものの“できる人が、できることを、できる時に”と言う暗黙の了解がプラスに働いた賜物であったと強く感じました。

AYMは、各国がそろって知り合うことなどめったにできないアセアン10か国の青年、日本各地からの参加青年、ローカルユース、そして実行委員達にも数多くの素晴らしい出会いを提供してくれました。短い期間ではありますが同じ経験を共有し、意見を交換し、青年たちが交流を通して数多くのことを学ぶことのできる大変貴重な機会です。学校の授業やメディアを通じて学んだそれぞれの国の政治、経済、国の方針などでできあがったいわゆるステレオタイプのイメージは、実際に

主 要 内 容

第30回「東南アジア青年の船」 ～アジア青年のつどい～ ……5～9	第19回全国大会兵庫大会報告 ……16
難民問題に取り組む国連の活動を 民間から支援する ……10～13	マレーシア SIGA の開催案内 ……17
「サルサダンス教室」開催 ……14～15	ブロック大会への参加呼びかけ ……18～19
	航空機による海外派遣事業 第30回「東南アジア青年の船」報告会 ……20

〈表紙の説明〉

アジア青年のつどい
学校訪問より
新宿区立四谷第六小学校



▲ 到着歓迎式であいさつをする大河原委員長

いろいろな国の青年たちと出会い交流を通じて話をしてみると、ずいぶん異なることもよくあることです。若いうちにいろいろな国々の人と出会い多種多様な文化、習慣、思考に触れ、世界をいろいろな角度から見るとは、これからのグローバルワールドで活躍していく青年たちの人生にどれほどプラスになるか、計り知れない程です。

世界を知ることと同時に日本についての理解を深めることの重要性を知る良い機会でもあります。日本に生まれ育ち、恵まれた社会環境の中であってあたり前だと思っていることが、他の国では全く考えられないような贅沢であったり、その反対であったりと……異文化を知るというのは、未知の世界を発見していくことであると同時に、自分の置かれている立場を再認識する絶好のチャンスです。異文化を知り互いの違いを認めた上でいかに協力して共存していかれるのかというのは世界の大きな課題でもあります。このような貴重なチャンスを数多くの方々とシェアすることができ、感動を共に分かち合えたことに私自身も深く感謝いたします。

最後になりましたが、内閣府、(財)青少年国際交流推進センター、(独)国立オリンピック記念青少年センター並びに(社)青少年育成国民会議及び関係方面の方々に多大なる御尽力を頂きましたことを改めて感謝申し上げますと共に、このプログラムの益々の発展と継続を心から願っております。



「アジア青年のつどい」について

1. 名称：「アジア青年のつどい」（英文：Asian Youth Meeting）
2. 期間：2003年10月19日（日）～22日（水）
3. 主催：内閣府
4. 共催：独立行政法人国立オリンピック記念青少年総合センター／社団法人青少年育成国民会議
財団法人青少年国際交流推進センター
5. 趣旨：「アジア青年のつどい」は、平成15年度「東南アジア青年の船」（第30回）事業の参加青年（日本及び東南アジア10か国）と日本で一般募集されるローカルユースとの宿泊型交流プログラムである。参加青年とローカルユースは、各種交流会を共に行動することによりお互いの友好と理解を促進し、併せて青年の国際的視野を広げ、国際協力とリーダーシップの精神をかん養することを目的としている。今年度のテーマは昨年引き続き「基礎教育」と設定し、参加青年が小中学校を訪問して日本の理解を深めるとともに、青年が取り組む社会活動として学校教育の現場にどのような役割を果たすことができるのかを具体的討議テーマとする。
6. 日程

10月19日（日）	ローカルユースのオリエンテーション 第30回「東南アジア青年の船」参加青年オリエンテーション 小学校訪問グループ毎の交流
10月20日（月）	小中学校訪問プログラム 交流の夕べ（参加青年、ローカルユース、実行委員、ボランティアスタッフ、 事業関係者などが出席）
10月21日（火）	全体説明会 意見交換会（グループ毎の分科会） ローカルユース修了式・閉会式
10月22日（水）	第30回「東南アジア青年の船」参加青年全体会 グループ別事業評価会

（訪問学校名）

（学校長名）

新宿区立早稲田小学校	前澤 紘一
新宿区立市谷小学校	原 妃 娑子
新宿区立津久戸小学校	荒木喜久子
新宿区立余丁町小学校	浅田 学
新宿区立花園小学校	山田 武雄
新宿区立四谷第六小学校	菅野 静二

新宿区立戸塚第三小学校	高田美代子
新宿区立落合第一小学校	森野 功雄
新宿区立落合第三小学校	河村 静枝
新宿区立西戸山中学校	竹田 秋人
新宿区立西新宿小学校	小野 清二

東南アジア諸国青年との交流を通して

新宿区立西新宿小学校長

東京都小学校英語活動研究会長

小野 清二

第30回「東南アジア青年の船」の参加青年32名とスタッフを入れて総勢40名を迎えて国際交流会を実施いたしました。

子どもたちは、1か月も前から準備して共に学び楽しむ一日を過ごすことができました。今年は、「東南アジア青年の船」事業の日本滞在が日程の最後であると共に、その中でも最後に学校訪問が設定されていましたが、子どもたちとの親密な交流がより深まりました。

私は（財）青少年国際交流推進センターとの連携のもとに教育現場と国際交流を繋ぐ窓口として長年携わってきましたが、新宿区の11校の全ての学校が交流のすばらしい成果を報告してきました。

今、学校は、国際理解教育に重点を置いています。これは、外国人に対する偏見を取り除き、我も他人も皆同じ人間であるという出発点に立っています。外国の人に対する固定観念は、子どもで

さえもっています。そこから脱却して、進んで外国の人々と交わろうとする意欲と勇氣、そして何よりも人に対するやさしさを育てることがより大切です。「私の国籍は人類であり、私の母国は地球である。」とある詩人は言っています。これこそ、私たちがめざすねらいの一つです。

今、全国の学校では、国際理解教育の一環としてコミュニケーション能力の育成をめざし、英語活動が取り入れられています。共に理解し、信頼と友情を深めるためのコミュニケーション能力は欠かせません。英語活動で学んだことが青年との交流で生かされ、相互理解につながっていることが何よりの成果です。帰国後、青年たちがメールで交流会の思い出や励ましのメッセージを送ってきます。そのたびに交流会の成果を確認し合っているところです。こうした機会を与えて下さった「東南アジア青年の船」事業関係者のみなさんに心より感謝いたします。



「アジア青年のつどい」を終えて

「アジア青年のつどい」総務委員長 藤井 満春
 (第28回「東南アジア青年の船」参加青年)

今年度の「アジア青年のつどい」も私にとって素晴らしいものとなりました。私と「アジア青年のつどい」とのつながりは、今年で4年目になります。2000年にはローカルユースとして、2001年には参加青年として、2002年、2003年には受入実行委員としてこの「アジア青年のつどい」に参加しました。ローカルユースの時には短い時間でいかに外国人参加青年と交流を深められるかに必死で、参加青年の時には外国人参加青年の案内等でバタバタし、受入実行委員の時はプログラムの準備や参加者の対応に追われていました。しかし、いずれの時も参加する立場は違っても、参加者と交流し、楽しむ事ができました。特に参加青年として参加した後は、私がプログラム中に受けた各国での温かい歓迎やもてなしに対する感謝の気持ちをもって、受入実行委員を務めてきました。そういう事もあり、参加青年がローカルユースと

の交流やその他のプログラムで楽しんでいる様子を見ると、とても嬉しくなりました。

今年度の受入実行委員会は、本格的には8月初旬に立ち上がり、本番までおよそ2か月以上を準備に費やしてきましたが、本番の3日間はあっという間に過ぎてしまいました。今回参加していたおよそ450名余りの方々は、それぞれが限られた3日間を有意義に過ごしていたようでした。そしてまた、今後も多くの方がこの「アジア青年のつどい」に参加し、日本とアセアン各国の距離がより近づくきっかけとなっていく事を願っています。

最後になりますが、私に、この貴重な機会を与えてくれた「アジア青年のつどい」を影で支えていた実行委員スタッフの皆さん、訪問させていただいた小中学校の先生方、そして「東南アジア青年の船」事業関係者の皆様に御礼を申し上げます。



左から二人目 藤井委員長

▼ ローカルユースの事前研修にて



難民問題に取り組む国連の活動を民間から支援する

特定非営利活動法人 日本国連HCR協会 中村 恵
(第23回「東南アジア青年の船」ナショナル・リーダー)

私は1982年に第9回「東南アジア青年の船」に参加し、フランス留学などを経て、1989年から2000年まで、UNHCR（国連難民高等弁務官事務所）に勤務しました。その後、UNHCRを支援する日本の組織の設立に関わり、今はその事務局に勤務しています。

青年の船のような「国際交流」が成立するには、前提として国と国が協力する「国際協力」が必要です。現在の世界が国という単位で構成されている以上、私たちは原則としてどこかの国に所属してはるはずですが、自分の国で安心して暮らせない状況に置かれる「難民」は、どこにも頼る国がありません。だからこそ、まさに国際的な協力による援助が必要となるのです。

UNHCR（ユー・エヌ・エイチ・シー・アール）とは

UNHCRは、難民に国際的保護を与え、難民問題に解決をもたらすため、1950年12月の国連総会によって設立された国連機関です。

1951年に成立した難民条約は「難民とは、人種や宗教、国籍、政治的意見などを理由に、迫害を受けるおそれがあるために自分の国を逃れた人」と定義しています。UNHCRは、この条約に基づいて難民を国際的に保護する役割を担い、現在では、国内で難民同様の状況に置かれている避難民および帰還民を含む約2,000万人を援助対象としています。その約8割は女性と子どもです。



▲ アンゴラ帰還難民：UNHCR/ M. Book

世界各地で、500以上の民間援助団体（NGO）と協力しながら、難民流出という緊急事態に対応して食糧や水、避難所を提供するだけでなく、難民キャンプで暮らす人々の生活を支えています。また、平和が戻りつつあるアフガニスタン、スリランカ、アンゴラなどでは、難民の故郷への帰還・再定住を援助しています。

UNHCRの活動資金は、各国政府からの任意拠出金や民間団体、企業や個人からの寄附金に頼っています。つまり、必要な資金が集まらない場合には、援助活動を縮小しなければならないこともあるのです。

日本との関わり

日本が難民条約に加入したのは1981年のことです。それに先立つ1978年、日本政府はベトナム

ム難民の定住受け入れを閣議了解によって決定し、その後、対象をラオスとカンボジアを含むインドシナ難民一般に広げました。これまでに約1万人が日本に定住しています。

1982年には「出入国管理および難民認定法」が発効しました。この20年間に日本は約300人を条約難民として認定していますが、その数は欧米諸国に比べるとはるかに少ないのです。ようやく近年、国内での対応の改善が議論されています。

1991年から2000年末までの10年間は、2003年10月に国際協力機構（JICA）理事長に就任された緒方貞子氏が、第8代難民高等弁務官を務めていました。現在の難民高等弁務官は、かつてオランダの首相を長年務めていたルード・ルベルス氏です。

日本人職員は約60名であり、世界各地の現場やジュネーブ本部などで活躍しています。

難民援助の現場

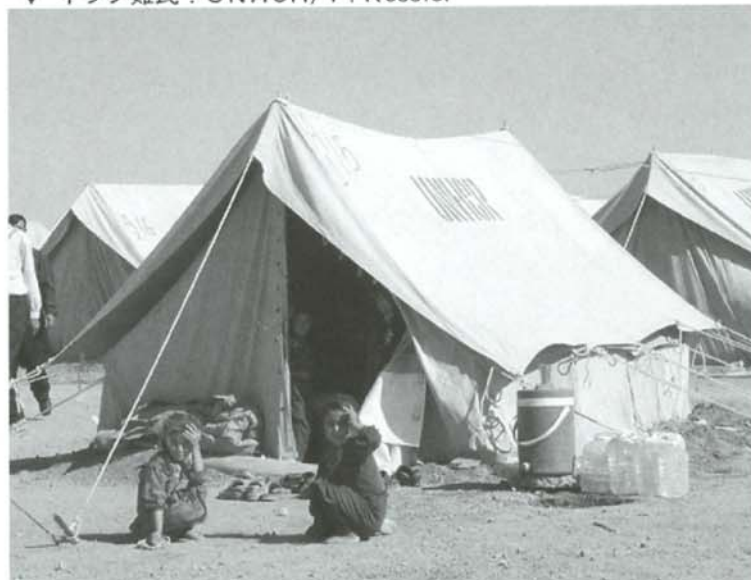
世界115か国の事務所で働く UNHCR の職員は約6,000人、その85%以上が難民キャンプ等のある現場での仕事に従事しています。家族といっしょに赴任できない厳しい地域も多く、伝染病の予防注射を何本も打ち、時にはマラリア蚊や下痢に悩まされながら、家族と離れた土地で、難民を保護・援助する仕事に打ち込んでいます。

アフガニスタンでは、2003年11月16日に29歳のフランス人女性職員が射殺されるという最悪の事態が起きてしまいました。彼女はアフリカのルワンダとギニアで UNHCR の仕事に従事した後、2002年6月以来、献身的にアフガニスタンでの仕事に取り組んでいた職員でした。アフガニスタンを愛し、「自分の身に何か起きたら、ここに葬ってほしい」と話していたそうです。援助を必要としている人々がいたとしても、現場の職員の安全が確保されなければ、援助活動の継続は難しくなってしまいます。

1997年末から99年春まで、私はミャンマーのラカイン州北西部にて、バングラデシュから帰還したイスラム系住民の再定住支援プログラムに関わりました。幸い治安はかなり安定していましたが、厳しい自然環境と複雑な政治状況は、援助活動にとって大きな障害でした。それでも、共に働いた同僚たちと共有する目的や仲間意識、異なる風土や文化に接する喜びが、日々の活動を支えてくれました。

現場では、厳しい環境にもかかわらず希望を棄てずに生きる難民、ようやく故郷に帰ることを喜ぶ帰還民一人一人の顔が見えてきます。

▼ イラク難民：UNHCR/P. Kessler





▲ 2001年パキスタンに逃れたアフガン難民
UNCHR/ P. Benater

日本国連 HCR 協会とは

日本社会の中には気がつかない世界の現実に触れると、平和と豊かさは簡単には手に入らないことを思い知らされます。しかし、誰もが難民援助の現場に行けるわけではないし、援助活動を後ろから支える人々の存在は欠かせないのではないのでしょうか。

国連機関である UNHCR と一般の人々の架け橋として、2000年10月、日本国連 HCR 協会（略称：HCR 協会）が特定非営利活動法人として設立されました。いわば UNHCR 日本委員会です。2003年6月20日、奇しくも「世界難民の日」に国税庁から「認定 NPO 法人」

として認可され、個人および法人からのご寄附ならびに相続財産のご寄附が、税務上の特例措置の対象となることが認められています。募金は、日本国連 HCR 協会から UNHCR 本部に送金され、世界各地での援助活動を支えています。

さらに、UNHCR 50 周年記念事業として 2000 年 12 月に創設された難民の中・高等教育を支援する民間組織「難民教育基金」（本部はスイス、名誉会長は緒方貞子氏）への寄附窓口も合わせて務めています。

現在、フルタイム職員 4 名、パートタイム職員とボランティアスタッフ数名が、UNHCR 東京事務所と緊密に連携しつつ、事務局を運営しています。青年の船出身者は、私を含め 2 名です。

私たちにできること

テレビや新聞は、紛争などによって難民が流出する緊急事態を主に報道し、その後に故国に戻れないまま異国での生活を続ける多くの難民は忘れられてしまいます。しかし、UNHCR には、難民問題の解決を目指して努力を続ける義務があります。その活動を支えるためには、緊急の時だけでなく日頃から関心を持ち、活動資金を提供し続けることが不可欠なのです。

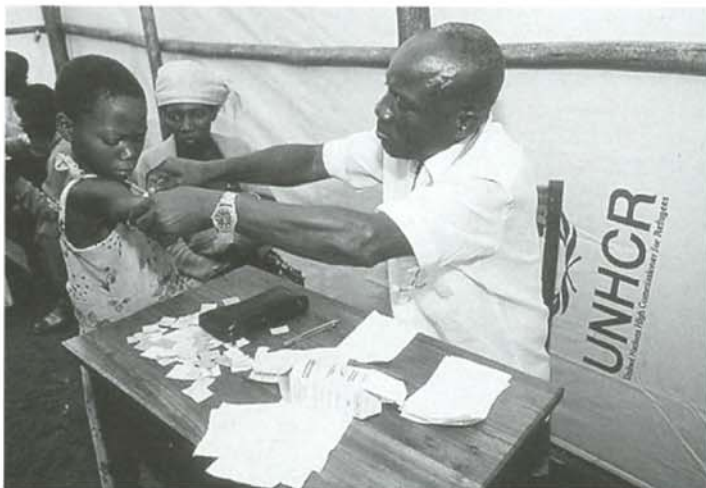
例えば、一定額を毎月ご寄附いただける自動払込み式ご寄附『毎月倶楽部』があります。ご無理のない範囲で、ぜひ多くの皆さまにご参加いただきたいと思います。

また、ボランティアとして、日本国内で UNHCR を支援する「助っ人会員」としてご参加いただくこともできます。HCR 協会と連携しつつ、ご自身の地域で、広報・募金活動にご協力いただきます。協会からは、催しなどのお知らせが随時届きます。助っ人会員の年会費（1 万円）は、ご寄附として寄附金控除の対象となり、協会の日々の活動を支える資金となります。現在、助っ人会員

数は約 500 名。9 割は個人ですが、草の根グループや学生サークルも登録しています。

地球規模で情報もお金もモノも動く今の時代、地球のどこか他の地域で起きたことが、すぐにも私たちの生活に影響を与えています。私たちは皆、相互依存関係にあるのです。つまり、たった一人のささやかな関わりにも、大きな意味があります。

難民が少しでも安定した生活を送れるように、私たちが住むこの世界が少しでも安全な場所になるように、何か私たちにもできることがあるのではないのでしょうか。この世界を支えているのは、私たち一人ひとりなのだという自覚を持ち、自分にできることを見つけて、実践していきましょう。



▲ 1996年タンザニアに逃れたザイール難民
UNCHR/L. Taylor

国連難民募金へのご協力をお願い致します。御寄附いただいた金額は、寄附金控除の対象になります。

*郵便局から(手数料協会負担)

郵便振替口座：00140-6-569575

加入者名：HCR協会

*通信欄に「MC係」とご記入ください。

*銀行から(手数料御本人負担。銀行振込の場合は、ご一報ください。)

銀行名：UFJ銀行 青山支店

(普) 5251034

三井住友銀行 渋谷駅前支店

(普) 3478195

口座名：特定非営利活動法人

日本国連エイチシーアール協会

(「エイチシーアールキョウカイ」

で振込みができます。)

ホームページ

<http://www.japanforunhcr.org>

お問合せ：日本国連HCR協会事務局

Tel. 03-3499-2450

Fax. 03-3499-2273

E-mail info@japanforunhcr.org



「サルサダンス教室」開催

東京都 IYEO 事務局次長 山中千佳子

一般的に、日本人は音に合わせて体を動かすことが苦手な人が多いですが、楽しい音楽が聞こえてきたとき、心が浮くままにちょっぴりシャレたダンスのステップが踏めたらどんなに素敵なのでしょう。そんな、ちょっぴりはにかみやの日本人が自信を持って気軽にステップを踏めるように、東京都 IYEO では 12 月 7 日にサルサダンス教室を開催しました。参加者 41 名（役員・講師を入れると 50 名）を数え、こういったイベントには消極的な男性も 21 名参加してくださいました。

クリスマスが近いということもあり、ドレスコードを「赤や緑のクリスマスカラーを取り入れたもの」としたら、予想以上に会場にはクリスマスカラーが溢れ、気分も盛り上がり、会場の温度も急上昇、思いの外激しいステップに「真っ赤なお鼻」ならぬ「真っ赤なホッペ」で手に手をとりあい、はにかみながらも楽しそうに踊る姿が会場を埋め尽くしました。講師を務めてくださったマイク &

ミシエルのデモンストレーションには、ショーを見ている感覚でみな惚れ惚れとみとれていました。

今回はメーリングリストと口コミで参加者募集をしました。それにより、就職や留学で来日中の既参加外国青年も多数参加してくれました。事業がきっかけで来日している外国青年も多いので、今後も積極的に案内をしていきたいと思います。ただ、今回は日本語のみでレッスン指導して頂いたため外国青年には理解しづらかった部分もあり、既参加外国青年の参加に際する今後の課題であると感じました。

その他に嬉しいことに、「随分久しぶりに（事後活動に）参加したよ」と仰る第 7 回「東南アジア青年の船」や第 12 回「青年の船」の OBOG の方もいらっしゃいました。普段から趣味でサルサを踊られているということで、軽快なステップで懇親会の間若いメンバーにサルサを教えてください、その方にとっても活躍の場となり、世代を超



えた交流ができました。たとえ久しく IYEO から遠ざかっていても、その人にとって興味のあるイベントを行えば参加してくれるのだ、ということがわかり、次の企画ではどんな人と出会えるのかしらと楽しみにしている今日この頃です。

ところで、なぜ IYEO でサルサなの？と幾度か尋ねられました。国際交流の場ではダンスの機会が多くあるから？時代の風がサルサに吹いている？実は最大の動機は「私がやりたかった」からです。皆さんがどんな事後活動なら参加したいと思うかな、と考えたとき、「自分の心に聞いてみよう」という結論に至りました。事務局のメンバーが交互に自分の興味のあることを出し合い、企画し、協力して進めていく、このシンプルな考えに基づいた活動が、今の東京都 IYEO の活動を活発にしているように思います。更に、今回で言えば、素晴らしい講師の先生も（人気うなぎのぼり）、素敵な会場も（ムード満点好感接客）、IYEO 会員の

ネットワークから知り得ることができました。この多才で多彩な IYEO ネットワークを活かさない手はありません。これからも人と人を繋ぐ交流の場の提供ができたらいいなと思っています。そして個々に生まれた縁や吸収したエネルギーを、それぞれが思う場所に活かしていき、ときには発揮する場として利用して、事後活動という括りを超えた活躍に繋がるならば、東京都 IYEO 役員一同、こんなに嬉しいことはありません。



▲ SWY16 の皆さん。遠くは青森から参加してくれました

青少年国際交流事後活動推進大会 日本青年国際交流機構第 19 回全国大会 第 10 回青少年国際交流全国フォーラム 兵庫大会

日本青年国際交流機構第 19 回全国大会が、昨年の 11 月 8 日、9 日の両日に、兵庫県神戸市のシーサイドホテル「舞子ピラ神戸」で開催されました。

フォーラムの基調講演には、齋藤富雄兵庫県副知事をお迎えして、「被災地に生まれた多文化共生の意識」というテーマによりお話いただきました。このフォーラムには、神戸の一般の方にも無料で参加募集を行い、会員外の参加を呼びかけました。右の写真は、熱心にお話し下さった齋藤副知事の講演の様子です。





第2部は、文化交流会とテーマ別文化会が並行して行われ、興味に応じて選んで参加できるようなプログラムに組み立てられました。文化交流会では、兵庫の地元の皆さんによる多彩なパフォーマンスが繰り広げられ、楽しい時間となり、最後は大合唱で終わりました。テーマ別分科会もそれぞれ盛り上がり、展示コーナーには全国の物産展ももうけられました。2日目は、事後活動シンポジウムと題して、近畿各府県の若手による活動発表や意見交換がおこなわれました。上の写真左が、シンポジウムの様子です。閉会式の最後は、来年の開催県である佐賀県から、九州ブロックのメンバーとともに参加呼びかけのアピールが行われました。次号では、大会実行委員からのレポートも含めて分科会の様子など詳細を御報告したいと思います。

今大会は、開催県の兵庫県を近畿ブロック全体で盛り上げる形となり、ブロック全体から実行委員がでて実行委員会を組み合わせることができました。実行委員会にとって、全国のメンバーがより多く集まって下さることが、最も嬉しいことです。今後も魅力ある全国大会作りに努力していきたいと思いますので、全国の会員の皆さん、多くの御参加をお願いします。佐賀大会でお会いしましょう。(日本青年国際交流機構事務局長 大橋玲子)



～ 16th SSEAYP International General Assembly in Malaysia ～

昨年度延期された SIGA マレーシアがいよいよ開催されます！

- 日 程： 平成 16 年 4 月 28 日（水）～5 月 2 日（日）
- 場 所： マレーシア（クアラルンプール&マラッカ）
- プログラム：
 - <1 日目> 参加者到着
 - <2 日目> 開会式・総会・ワークショップ
 - <3 日目> 市内観光（サイバービュー、首相官邸、マルチメディア大学 など）
A'Famosa Resort（マラッカ）への移動
 - <4 日目> A'Famosa Resort にてリクリエーション・閉会式
 - <5 日目> 参加者帰国
*ランカウイ島へのオプションツアー
（別途料金 US\$ 80、4 日まで）
- 参加費： US\$ 180（指定期日まで申し込んだ際の基本料金）
（プログラム参加中の食費、宿泊費、参加費が含まれます。
申込み期日、私用する部屋のタイプで料金は異なってきます。）
- 航空券： マレーシアへの往復航空券は、各自ご用意ください。IYEO を通じて購入を希望される方は、下記申込み先までご連絡ください。なお、ゴールデンウィークの為混雑が予想されます。航空券はお早めにお買い求め下さい。
- 申込み方法： 参加ご希望の方は詳細資料を IYEO 事務局からお取り寄せ下さい。申込みは各同窓会を通して行われますので、個人でのマレーシアへの直接の申込みはされませんようお願いします。
- 申込み先： IYEO 事務局 (担当：赤澤、渡辺)
Tel:03-3249-0767 Fax:03-3639-2436 E-mail:siga@iyeo.or.jp
Homepage URL: <http://www.iyeo.or.jp/siga/2004/itinerary.htm>
（ホームページ上からプログラム日程をダウンロード出来ます。）



平成15年度青少年国際交流を考える集い（ブロック大会）

IYEO ブロック大会は毎年全国8ブロックで開催されます。1月から2月にかけて、以下の4ブロックで開催されますので、参加希望の方はお誘い合わせの上、奮ってご参加下さい。

*プログラム詳細は実行委員長または都道府県 IYEO 会長にお問合せ下さい。

近畿ブロック大会

- ・日 時：平成16年1月31日（土）～2月1日（日）
- ・会 場：奈良県奈良市・三井ガーデンホテル奈良（JR奈良駅、西側すぐ）
- ・プログラム：基調講演（講師：イラク医療学生会議代表）、帰国報告会、懇親会、三輪そうめん作り体験、奈良市内観光オプションツアー等
- ・参加費：全日程（宿泊） 12,000円（宿泊、朝昼食、そうめん体験代含む）
全日程（非宿泊） 9,000円（昼食、そうめん体験代含む）
第1日目のみ参加 7,000円 / 懇親会参加のみ 6,000円
第2日目のみ 3,000円（昼食、そうめん体験代含む）
講演・ホルン演奏・報告会のみ 1,000円
- ・お問合せ先：奈良 IYEO 会長 喜多 聡
(Tel:090-3844-2232 E-Mail: kita3104@m4.kcn.ne.jp)

関東ブロック大会

- ・日 時：平成16年2月7日（土）～8（日）
- ・会 場：国民年金健康保養センター きつれがわ（塩谷郡喜連川町）
- ・プログラム：講演会『人間の和、人との和』（講師：アントニオ古賀氏）
ワークショップ『栃木発！ 国際交流設計事務所』
オプションツアー（イチゴ狩り・いわむらかずお美術館など検討中）
- ・参加費：宿泊 12,000円、日帰り（講演会・ワークショップ・懇親会参加） 8,000円
一般公開プログラム参加（講演会・ワークショップのみ参加） 1,000円
- ・お問合せ先：栃木県 IYEO 関東ブロック大会実行委員長 赤木克葉
電話・FAX：028-653-5154 E-mail: katsuha@gray.plala.or.jp

中国ブロック大会

- ・日 時：平成16年2月7日（土）～8（日）
- ・会場：＜開会式・帰国報告会・講演会＞ サンライフ岩国
 （岩国市 錦帯橋西岸の吉香公園）
 ＜懇親会・宿泊＞ 岩国ビジネスホテル&スパ（JR岩国駅前）
- ・プログラム：帰国報告会、講演会講演「平成の架け替え」（講師：海老崎栄次氏）
 錦帯橋架け替え工事見学、懇親会
 分科会（岩国の歴史探訪、大正ロマン体験、岩国寿し作り体験）
- ・参加費 宿泊（懇親会費、1泊2日朝食、錦帯橋渡橋代含む） 10,000円
 （小・中学生 5,000円）
 日帰り参加（懇親会費 + 錦帯橋渡橋代込） 5,000円
- お問合せ先 山口県青年国際交流機構事務局
 FAX：(0836)51-0367 E-Mail：y-iyeo@mx5.tiki.ne.jp
 詳細は山口 IYEO ホームページにてご確認ください。
 URL：http://ww5.tiki.ne.jp/~y-iyeo/2003cb/2003cb.htm

九州ブロック大会

- ・日 時：平成16年2月14日（土）～15（日）
- ・会場：熊本交通センターホテル（熊本市）
- ・プログラム：熊本県在住外国人パネリストによるパネルディスカッション（予定）
 懇親会、分科会
- ・参加費：宿泊 12,000円 懇親会のみ参加 6,000円
- ・お問合せ先：熊本県 IYEO 九州ブロック大会実行委員長 村本 きよみ
 電話：090-3415-4122 FAX（職場）：096-355-2031
 E-mail：muramoto@rkk.co.jp

帰国報告会が予定されている大会につきましては、今年度事業参加者の事業報告を聞くだけでなく、新たな絆を築く機会ですので、是非足をお運びください！

平成 15 年度 内閣府青年国際交流事業 事業報告会

- ◎ 航空機による派遣事業（国際青年育成交流、日韓青年親善交流）
まず知ろう！世界の仲間たち～私からあなたへ～

日 時:2004 年 2 月 22 日(日) 13:30～17:00
ホームページ URL: <http://www.iyeo.or.jp/Air/2003/>

- ◎ 第 30 回「東南アジア青年の船」事業
～東南アジア経由 未来行き 共通言語：アジア語 参加資格：アジア人～
日 時：2004 年 3 月 14 日(日) 13:00～16:30

会場：(独) 国立オリンピック記念青少年総合センター
国際交流棟 1 階 国際会議室 (会場は両日とも共通)
参加費：無料

【申込み方法】

参加を希望される方は、お名前、参加希望事業名、参加事業／紹介者、連絡先を御記入の上、下記の問い合わせ先まで郵送、電話、FAX、E-mail にてお申込みください。

〒103-0013
東京都中央区日本橋人形町 2-35-14 東京海苔会館 6 階
(財) 青少年国際交流推進センター 「〇〇〇事業報告会係」
TEL:03-3249-0767 FAX:03-3639-2436
航空機担当：赤澤、酒井 (hq@iyeo.or.jp)
東ア船担当：渡辺、下津、藤井 (sseayp@iyeo.or.jp)



編集後記

昨年は、国際交流事業を展開するには厳しい世界情勢が続きました。そんな 1 年であったからこそ、国際交流が安心してできることの意味を改めて知る年ともなりました。よりよい交流の場の提供を目指して、確実な努力を心がけたいと思います。人と人を結びつける価値の大きさを信じて。

* 本誌の年間講読をご希望の方は、財団法人青少年国際交流推進センターまで葉書又は FAX にてお申込み下さい。年間講読料は 1,500 円です。

MACROCOSM (マクロコズム) 1 月号 Vol.56 2004 年 1 月 1 日発行 (隔月発行)	
編集：マクロコズム編集委員会 発行：財団法人 青少年国際交流推進センター 〒103-0013 東京都中央区日本橋人形町 2-35-14 TEL 03-3249-0767 FAX 03-3639-2436 e-mail hq@iyeo.or.jp URL http://www.centerye.org http://www.iyeo.or.jp(IYEO)	編集協力：内閣府政策統括官 (総合企画調整担当) 日本青年国際交流機構 定 価：198 円 (本体 189 円) 印刷所：株式会社 絢文社 TEL 03-3959-3960

課題別視察

10分野13コースを設定し、参加青年の希望に応じてグループを作り訪問しました。



▲ 裏千家東京道場
実際に茶筌を振ってみました



▲ 上野動物園
東京都サービスボランティアの皆さんの活動を学ぶ



▲ 東京都廃棄物埋立管理事務所
担当者の方から中央防波堤の説明を受ける



▲ 読売新聞社

キッコマン株式会社 ▶
「ものしり醤油館」館長から説明をしていただく



立川防災館 ▼



明治学院大学
「少年犯罪について」学生との
ディスカッション ◀



'03 10 15

おいしいとこどり、にっぽん丸。

いちばん美しい季節に、日本の風景をゆったり楽しむクルーズへ！
北から南まで、多彩なコースをたくさんご用意しました。



主催

商船三井客船

ボンド保証会員

国土交通大臣登録旅行業第946号

日本旅行業協会正会員

〒107-8532 東京都港区赤坂 1-9-13 三会堂ビル5F

お問い合わせ
は

クルーズ
デスク



フリーダイヤル

0120-791-211

<http://www.mopas.co.jp> 大阪支店(06)6449-4701



ハダゲルフィヨルド(ノルウェー)
Photo: Mike Louagie

冒険する生活
にっぽん丸



客室(スイートルーム)



客室(デラックスルーム)



客室(ステートルーム)



(イメージ)



(イメージ)



(イメージ)

感動の航海をお約束する 【にっぽん丸】クルーズ

詳しいパンフレットをご用意しております。
どうぞご請求ください。

西海、瀬戸内海、足摺宇和海へ、海の国立公園をめぐる

にっぽん丸・春クルーズ Aコース

2004年3月29日(月)～4月4日(日) 7日間 **240,000円～876,000円**
グループ3 (スイートルーム2名1室使用)
客源地 東京～佐世保～尾道～宇和島～宿毛湾～横浜 (ステートルームB:3名1室使用)

北国の春、雪の回廊が待つ青森へ

春の津軽クルーズ

2004年4月5日(月)～4月9日(金) 5日間 **174,000円～632,000円**
グループ3 (スイートルーム2名1室使用)
客源地 横浜～青森～横浜 (ステートルームB:3名1室使用)

春爛漫、桜並木と光る海 **週末利用**

春の伊勢志摩クルーズ

2004年4月9日(金)～4月11日(日) 3日間 **82,000円～304,000円**
グループ3 (スイートルーム2名1室使用)
客源地 横浜～鳥羽～東京 (ステートルームB:3名1室使用)

4月、沖縄はもう夏の始まり。美しい海をたっぷり楽しむ

魅惑の沖縄アイランドクルーズ 一慶良間・八重山・宮古列島 Aコース

2004年4月12日(月)～4月24日(土) 13日間 **627,000円～2,124,000円**
グループ3 (スイートルーム2名1室使用)
客源地 東京～神戸～慶良間～那覇～石垣～宮古島～神戸～東京 (ステートルームB:3名1室使用)

白壁の天守が見守る城下町、歴史を秘めた島々をたどる

ゴールデンウィーク 日本一周クルーズ Aコース

2004年4月24日(土)～5月5日(水・祝) 12日間 **538,000円～2,200,000円**
グループ3 (スイートルーム2名1室使用)
客源地 東京～神戸～鹿児島～三井茶～萩～金沢～佐渡～函館～東京 (ステートルームB:3名1室使用)

日本三景を一度に巡る日本一周。北の函館と南の日向へも寄港

日本一周クルーズ 一新緑の日本三景 Aコース

2004年5月7日(金)～5月16日(日) 10日間 **380,000円～1,489,000円**
グループ3 (スイートルーム2名1室使用)
客源地 神戸～横浜～仙台～函館～宮津～船島～広島～神戸 (ステートルームB:3名1室使用)

新緑の季節に四万十川と歴史の島・巻岐へ

薫風の宿毛湾・巻岐と瀬戸内海クルーズ

2004年5月20日(木)～5月23日(日) 4日間 **127,000円～500,000円**
グループ3 (スイートルーム2名1室使用)
客源地 神戸～宿毛湾～巻岐～神戸 (ステートルームB:3名1室使用)

太平洋へ、世界遺産候補の美しい海へ

初夏の小笠原クルーズ

2004年5月24日(月)～5月29日(土) 6日間 **174,000円～698,000円**
グループ3 (スイートルーム2名1室使用)
客源地 名古屋～父島(二見)～名古屋 (ステートルームB:3名1室使用)

※最少催行人員:各コース2名

※詳しい旅行条件を説明したものをお渡ししていますので、事前にご確認の上、お申し込みください。

※添乗員は同行しませんが船内ではスタッフがお世話します。

※注1: 熟年割引代金の設定があります。 注2: 早期申込割引代金の設定があります。

美しい時代へ——東急グループ



旅も楽しめる合宿にしたい。



急に1週間の全国出張になった。

ひとりひとりに、満点旅行。

ONE
to
ONE



家族水入らずで楽しめるプランを。



北から南まで温泉三昧したい。

商品力、サービス力、情報力、3つのパワーで、
あなたの旅をさらに快適に。

どんな旅でも、東急観光はすべてのお客様に満足
していただきたいと願っています。そのために、オリ
ジナル旅行や団体旅行など、多彩な商品をご用意。
IT活用による最新情報入手から24時間予約まで、
リアルタイムな体制でお応えします。そして旅を熟知
した私たちのひとりひとりが、お客様の旅を親身
になって考えます。



東急観光

国土交通大臣登録旅行業第38号
©日本旅行業協会正会員・ボンド保証会員
〒153-8550 東京都目黒区東山3丁目8番1号
<http://www.tokyukanko.com>
<http://tour.tokyu.com>